

佛蘭西書巡覧 28

平山 弓月

しかし、ルソーの「告白」の特徴は、自己自身に対する観察を、「自己描写」あるいは「エッセー」という形で表現したのではなく、それを彼以前には類のなかった「自伝」という新しいジャンルによって表現したところにあるのです。

中川 久定 『自伝の文学』



私たちはどのように「自己」を語るのでしょうか。色々な場面で、私たちは「自己紹介」を求められることがあります。そのようなときには「自己アピール」を押し出すこともありますが、他者に自分を理解してもらうには、正直にかつまた赤裸々に語る事が大切になるでしょう。これがかなり難しいことなのです。

自己弁明しすぎているとの批判もありますが、それでもなお自らを赤裸々に語った先駆者として、18世紀フランスの人、**ジャン・ジャック・ルソー** *Jean-Jacques Rousseau(1712-1778)*の名を挙げることができるでしょう。

フランスから亡命して来た、新教徒の時計職人を父として、カルヴァン派が厳しく全生活を支配するジュネーヴでルソーは生まれました。母は彼が生まれた直後に亡くなります。母を自分の出産がもとで亡くしたという影は、生涯ルソーから離れることはなかったようです。

16歳の時に、遊びに出て町に帰るのが遅くなり、咎められるのを恐れてルソーはそのまま、窮屈に感じていたカルヴァン派の町ジュネーヴを後にします。

紹介されて頼ったヴァラン夫人に、母親像を見出したのか、放浪遍歴を重ねても、ルソーは「ママン」と呼ぶ夫人の許へと戻って来る生活を10年近く続けました。

30歳になり彼はパリに上ります。音楽家として身を立てようとしますが、苦しい生活は変えることは出来ませんでした。そんな中、啓蒙思想家のフォントネル、ディドロ等と知り合い、社交界にも出入りします。このようなパリでの交友から、のちに袂を分かつこととなるディドロから『百科全書』の「音楽」「ジュネーヴ」等の項目を書くように依頼されるのです。

本稿では触れませんが、いくつものオペラ脚本、喜歌劇、懸賞論文や小説を精力的に書き綴ります。中には宗教批判と疑われ禁書とされる作品もあり、逮捕状まで出て海外に逃亡することもありました。しかし彼の文名は徐々に高まって行きました。これらの作品については、稿を改めてお話しすることとしましょう。

本稿では、冒頭で申し上げた「自伝」である、1765から70年頃にかけて書かれ、死後に出版された『告白』*Les Confessions*を取り上げましょう。

Je n'ai qu'un guide fidèle sur lequel je puisse compter, c'est la chaîne des sentiments qui ont marqué la succession de mon être, et par eux celle des événements qui en ont été la cause ou l'effet.

私が頼りにできる道案内はたったひとつしかない。それは感情のつらなりで、これが私の存在をしるしづけ、またこれがそれらの感情の原因、あるいは結果となったさまざまな出来事の連続をも示しているのだ。

L'objet propre de mes confessions est de faire connaître exactement mon intérieur dans toutes les situations de ma vie. C'est l'histoire de mon âme que j'ai promise.....

私の告白の本来の目的は、生涯のあらゆる境遇を通じて、私の内部を正確に知ってもらうことである。私が約束したのは魂の歴史である…。

「自己」を正確に語る時には、歴史的事実や外面的なことは必要ではないと、ルソーは言います。「自己」を正しく伝えるには、自我の内部に分け入ればいいのだ、とも書きます。ややもすれば「自己中心的」との誹りを受けかねない彼の態度は、その時代にあってはなかなか理解されませんでした。そのためにルソーは多くの友人と仲たがいをしますが、自らの考えを変えようとはしませんでした。現在でも、このような態度は、理解はされても受け入れられることは難しいのではないのでしょうか。

社会的生活を余儀なくされる現代人は、自分に忠実であろうとしても、周囲の環境、外面的なことに気を使わざるを得ないのです。しかしながら、ルソーのこのような想いは、けっして忘れてはならないものでしょう。その意味で、いま『告白』を繙く時間を持っていただきたいと思います。

(本稿を成すにあたり、中川久定先生の『自伝の文学』(岩波新書)を参考にさせていただきました。)

ひらやま ゆづき(教授・フランス語・フランス文化論)